

ふじのみや探検

第24号 富士山頂のひみつ



発行：富士宮市立中央図書館 〒418-0067 静岡県富士宮市宮町13-1 TEL:0544-26-5062 FAX:0544-26-1284

ひみつ1 剣ヶ峰は日本一高く、たいへん美しい姿

富士宮市立中央図書館から富士山本宮浅間大社の杜のうえに富士山頂が見えます。それはペン先の形のように、左右のバランスがとれたシンメトリーで、たいへん美しい姿です。

先のとがったところが剣ヶ峰で、日本の山の中で一番高く3776mあります。この名称について、『甲斐国志』に「剣ノ峰」は、剣を立てたような形で、登山者は険しいため登らなかったとあります。また、『駿河国新風土記』には、この峰の石がとても鋭利で剣のかわりにしようと持ち帰る人もいたとあります。



富士山頂は、すり鉢のようになっている噴火口です。直径700m、深さ200mほどあります。一周はおよそ3000mあり、90分間くらいで歩くことができます。火口の周囲は平らではなく、一番高い剣ヶ峰をはじめ、逆時計回りに1三島ヶ嶽、2駒ヶ岳、3浅間岳、4成就岳、5伊豆岳、6大日岳、7久須志岳、8白山岳がそびえ、富士山本宮浅間大社の奥宮、久須志神社、旧富士山測候所、山小屋などがあります。また、雪どけ水がしみ出るこのしろ池、金明水、銀明水とよばれる場所もあります。9世紀のころ

に書かれた『本朝文粹』の「富士山記」には、「中央がくぼんで米をたく器のようになっている。その底には神池があり、中にある大石は奇石で、まるで虎がうずくまっているように見える(虎岩)。また、くぼみの中は常に蒸気が出ており、その色は純青である。くぼみの底をのぞくと、湯が沸騰しているようだ」と、あります。9世紀のころの噴火口には「神池」とよばれる青い湯をたたえた池があったようですね。また、昭和の中ごろ荒巻付近では、噴気が出ていたことが観測されています。富士山頂には、ひみつがたくさんあります。

◇ことばの説明

本朝文粹…平安時代の漢詩文集。その中で、都良香という役人が「富士山記」を書いています。実際に富士山に登らないとわからないような記述がみられ、貴重な資料になっています。

ひみつ2

富士山頂は

富士山世界文化遺産の構成資産

富士山頂は、富士山世界文化遺産の構成資産のひとつです。富士山の山頂部には、火口壁にそって神社の社殿をはじめいくつかの富士山信仰に関連する場所や施設があります。



江戸時代、富士山への信仰登山がさかんになると、登山者は山頂で御来光を拝み、金明水や銀明水から水をくんで神仏に供えたり、お賽銭を捧げたりして、火口のまわりを巡拝しました。火口の八つの峰にまつられている神仏を参拝することを「お鉢めぐり」とよびます。釈迦が座る八枚の蓮の花びらになぞらえたもので「お八めぐり」だったものが、火口の形が鉢の形に似ているのでいつのまにか「お鉢めぐり」とよばれるようになったそうです。

明治になり神仏分離令で山頂部の仏教的な施設はなくなりましたが、仏像や石碑が残されていること、神域を示す鳥居が建てられていること、そして御来光を拝むことをはじめ「お鉢めぐり」として山頂をめぐることで、富士山信仰が現代につながっているとして世界文化遺産として認められました。



◇ことばの説明

御来光…高山で見る荘厳な日の出の景観。

ひみつ3

奥宮がある

富士山頂には富士山本宮浅間大社の奥宮があります。7、8月の開山期だけ神職が奉仕され、家内安全などの祈願、結婚式の奉仕、お札・お守りの授与、金剛杖・行衣への御朱印の授与をおこなっています。金剛杖や行衣に御朱印を押してもらうことで、登頂の証としました。



『富士山頂上の歴史』に紹介されている富士山頂での結婚式

明治になって山頂にあった大日堂は奥宮となり、明治34～35年に改修され、何回かの修理の後、平成23年の大地震で被害にあいましたが、その後、再建とりかかり、平成28年8月に完成しました。

また、平成29年8月に、鳥居が75年ぶりに新しく取りかえられました。



◇ことばの説明

大日堂…大日如来を安置してある堂。

鳥居…神社などにおいて神域と人間がすむところをわけるものであり、神域への入口を示すもの。一種の「門」である。

安永8年(1779)江戸幕府は、富士山八合目より上は富士山本宮浅間大社のものとする許可を出しました。江戸時代が終わり明治になると、寺や神社の土地が国有化されましたが、太平洋戦争がおわり新しい憲法のもとで土地が返されました。しかし、富士山八合目以上の土地は公益性が高いとして国有地として残すことになりました。これに対し、富士山本宮浅間大社は「富士山信仰のために富士山八合目以上の土地は必要である」と、国を相手に裁判所に訴えました。その間、「日本のシンボルである富士山を私有化することは国民感情が許さない」という考えがでてきて、政治問題にもなりました。

国と富士山本宮浅間大社との間で17年間にわたり裁判がおこなわれ、昭和49年に最高裁判所は、「富士山八合目以上は、宗教上必要である」とした富士山本宮浅間大社側の主張を全面的に認めました。

ただし、判決によって山頂は神社の所有地になったものの、国にとって必要な土地は除外しています。

◇ことばの説明

公益性…社会全体の利益につながる性質。



剣ヶ峰には富士山測候所があります。昭和7年から気象観測をはじめ、昭和11年から平成16年まで、気象庁の職員が常駐していました。一年を通して有人観測がおこなわれ、昭和39年に富士山レーダーが設置され、台風の進路予測に威力を発揮しました。富士山レーダーは気象衛星に役割を譲ると、平成11年に廃止され、気象観測の自動化も進み、富士山測候所は平成16年に無人化されました。



今では、観測施設は、自然現象の観測拠点として活用されています。富士山頂は「雷の名所」ともいわれ、地上に比べて間近で雷を観測でき、放射線の発生メカニズムを解明するデータを得やすい場所です。

また、富士山は、標高が高く単独峰であることで大気を観測するのに最適な場所です。大気汚染のもとになる窒素酸化物や硫黄酸化物を

通年観測する準備が進んでいます。特に、「光化学スモッグ注意報」の原因になる光化学オキシダントは、中国などから西風によって日本に来ると高濃度になっている可能性があり、山頂での観測が重要であるといわれています。

その他にも、山頂では水がたいへん貴重であるため、空気中の水分から飲料水にかえる造水機をつくるとりくみも進んでいます。

◇ことばの説明

光化学スモッグ…大気中にある物質が太陽をあびて光化学変化を起こし、有害な物質になって霧のように見えること。

光化学オキシダント…窒素酸化物と炭化水素が光化学反応を起こし生じる酸性物質（オキシダント）の総称。

◇『第24号 富士山頂のひみつ』は、次の資料をもとに作りました。

- 1 『世界遺産富士山—信仰の対象と芸術の源泉』 富士山世界文化遺産登録推進両県合同会議 / 株式会社カントー 2014
- 2 『富士山頂上の歴史』 鈴木雅史 / エース出版 2015
- 3 『日本一の高所・富士山頂は宝の山』 土器屋由紀子・梶山沙織 / 創碧社 2016
- 4 『富士山』 小山真人 / 岩波書店 2013
- 5 『富士山測候所物語り』 志崎大策 / 成山堂書店 2002
- 6 『富士山まるごと大百科』 佐野 充 監修 / 学研 2014
- 7 『図説 富士山百科』 酒井直行編集 / 新人物往来社 2002
- 8 『富士山の秘密がわかる本』 富士山雑学研究倶楽部編集 / 学研パブリッシング 2013
- 9 『富士山の謎と不思議』 土屋俊介 編集 / 学研パブリッシング 2013
- 10 『富士山八合目以上は「神の領域」』 月の輪27号 澤田政彦 / フジ印刷 2012